

琴〈こと〉ひきの滝〈たき〉（西紀町）

福知山線丹波〈たんば〉大山駅から四百メートル程北へ行ったところに、前方後円の形をした茶臼〈うす〉山があります。一名少将山とも言い、丹波の少将または、千種〈ちぐさ〉の少将の館〈やかた〉があったところとも伝えられています。

すぐそばを篠〈ささ〉山川が流れ、ここを小滝とも言い、景色のよいところでもあります。

むかし、ある貴人がここに来られて、皎皎〈こうこう〉と照りわたる月を眺めて、琴を弾〈ひ〉き、従者〈じゅうしゃ〉とともに、夜の明けるまで楽しまれ、遊びの名残りを惜〈お〉しまれて、

「明野の末の恨〈うら〉めしきかな。」

と歌われ、琴を川へ投げ入れ、旅立たれたといひます。

後に、野を明野、川を明野川と呼ばれ、滝は川床が琴の面のように、数条の溝〈みぞ〉ができていたこともあって、琴ひきの滝と名づけられました。

今も水量豊かな清流が、しぶきをあげながら流れています。

